

春秋彩

Syunjusai

特集

「熊本新時代を切り開く」… 2

活躍する卒業生 …………… 7

国際交流 …………… 8

研究活動紹介 …………… 10

大学の動き …………… 12

INFORMATION …………… 13

活き活き元気種 …………… 14

お知らせ・おすすめの1冊 …………… 15



 熊本県立大学

春秋彩とは 万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学広報誌

2011 SPRING

vol. 34

熊本新時代

あいさつ



理事長

荻茂 壽太郎

新しい時代の新しい公立大学

私は、時代認識という表現をよく使います。地域認識という表現と一緒に使うこともあり、それは私の専門である造園のデザインコンセプトをつくるときです。

今、熊本は大きく変わろうとしています。新幹線が開通したことで既に変まりました。博多までの距離感や大阪への動きが新しい形になりました。そして、熊本市が来年には政令指定都市になりまた変わろうとしています。この二つをダブルチャンスと表現することもあります。チャンスだけでなく危惧する声もあります。

進化論のダーウィンは強い種が残るのでなく、変化に対応できた種が残ると説いています。これに従うなら変化に対応できた時に前者となり、熊本県立大学もその道を選ばなければなりません。64年前の県立女子専門学校の創設、31年前の現在地へのキャンパス移転、17年前の熊本県立大学となつての共学化、そして5年前の公立大学法人化と4つの転換期にも匹敵する時です。この新しい年度は、皆で「変化への対応」を共有したいと思います。時代認識を怠らない大学運営に心がけ、大学の価値向上に更に邁進しましょう。

熊本新時代を切り開く

学長 古賀 実

熊本新時代

2011年3月の九州新幹線全線開業、さらに2012年4月熊本市の政令都市移行を契機に、熊本は熊本新時代へと変貌を遂げようとしています。近世の歴史を振り返ってみると、熊本は肥後54万石の城下町都市から、明治新政府のもと九州の政治と軍事の中心として発展し、そして現在では多くの教育機関が集まり教育文化機能を備え、歴史・文化の香りが漂う品格ある都市づくりが期待されています。

熊本における教育文化の土壌は古くから培われ、屈指の教育内容や規模を誇った藩校時習館、近代化に有為な人材を輩出したとされる熊本洋学校など、我が国の人材の育成と文化の醸成に大きく貢献してきました。

新幹線開業とともに九州内の都市はもとより、関西都市圏との利便性は大幅に向上し、人々の行き来が活発になることは必至です。今以上に鹿児島、福岡や大阪が身近に感じてくるでしょう。沿線の各地で産業の振興や観光客を呼び込むための拠点づくりが盛んに試みられていますが、地域の個性を生かした長期的な視点で受け皿の整備が求められ、オール九州



を切り開く

2011年3月12日、九州新幹線が全線開業し、博多まで最速33分、大阪まで2時間59分と時間距離を大幅に短縮。2012年4月には熊本市の政令都市移行と熊本が大きな変革を迎えます。

そのような中、熊本県唯一の公立大学としての存在価値を高めるための取組について紹介します。

としての連携も必要になってくると考えます。

魅力的な大学づくり

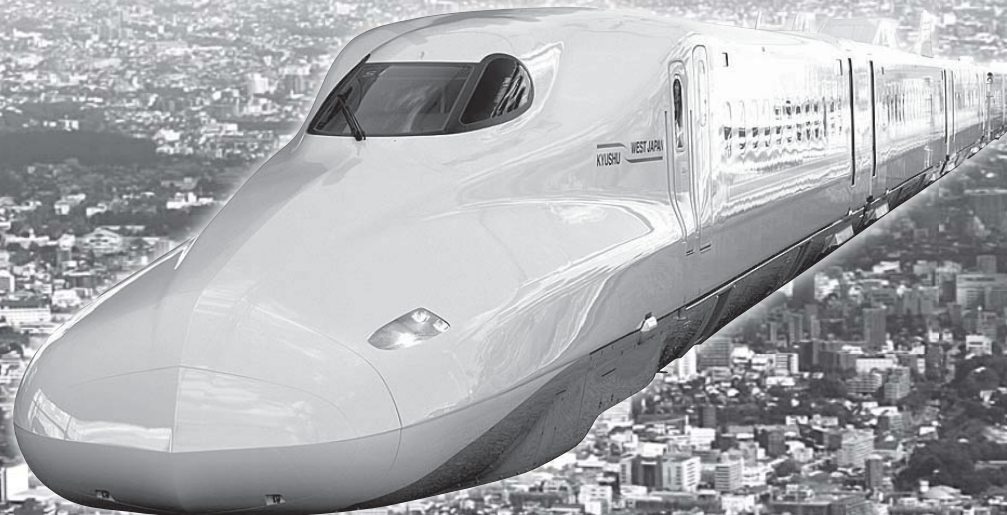
熊本県立大学では「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに「地域実学主義」に基づく教育を展開してきました。地域の自然、文化、社会を教材に「Think globally, act locally」と「Think locally, act globally」の両方を実践できる人材の育成をはかっています。平成22年度からは文部科学省の補助事業「大学生の就業力育成支援事業—自律と自立を目指す学生GP制度の創設」をスタートさせ、地域企業と連携したキャリアデザイン教育を進めます。その他学生の自立心を高める様々な取組を積極的に押し進め、熊本県立大学の学生力を全国に発信していきたいと考えています。

九州新幹線の全線開通に伴い「地域」の捉え方も変わってきます。とかく内向きだと評される学生諸君がより広い視野を持ち、より広く地域を捉え、様々な分野で活躍して欲しいと考えます。また、大学が果たすべき地域貢献の役割も変わってくるでしょう。熊本県立大学の地域貢献度はこれまで高い評価を受けてい

ます。学部や大学院における教育の充実は言うに及ばず、社会人や専門職業人のための生涯継続教育にも力を注いでいきます。大学が蓄えてきた教育力を生かし、九州全土から向学心に燃えた人々が集まってくるような魅力的な教育プログラムを構築して行きたいと考えます。

起点であり学びの原点

JR熊本駅は現代的な駅舎に改修され、新玉名駅の供用も始まります。どんなに時代が変わり、洗練されたデザインになっても「駅」には人々の旅立ち、別れの郷愁と到着、出会いの期待感とが漂ってきます。昨年秋の熊本県芸術文化祭において最優秀戯曲賞を受賞した文学部在学 石田みやさんの作品では、地方のバス発着所を舞台に若者の旅立ち、人々の人間模様が生き生きとステージで表現されていました。おそらく多くの若者たちがモダンな新幹線のプラットフォームから希望を抱いて旅立ち、新たな時代を切り開いてくれるでしょう。駅と同様に大学は常に若者達の起点であり、いつまでも学びの原点であり続けたいと考えます。



熊本新時代に向けた新しい取組1

「自律と自立を目指す学生GP制度」 就業力向上のための自立起動型プラットフォーム

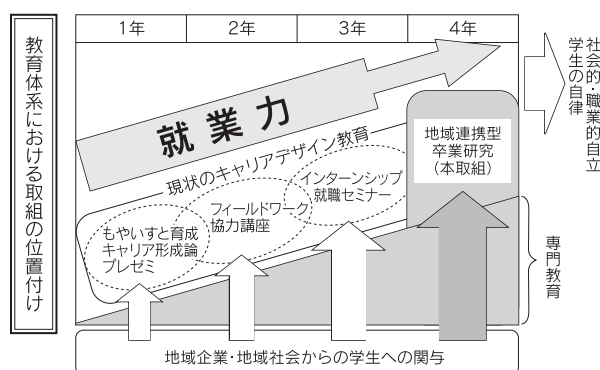
※GP:Good Practiceの略。「優れた取組」という意味で使われている。

熊本県立大学では、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」の採択を受け、地域企業・地域社会との連携を強めながら学生の就業力育成を図る「自律と自立を目指す学生GP制度」を創設しました。

本学は地域と関係が深く、2009年度には地域貢献度日本一にランクされました。また、卒業生の約6割が熊本県内に就職します。このような特徴を生かし、一貫したキャリアデザイン教育のもと、段階的に地域企業・地域社会との連携を強めながら、就業力向上を図り「地域に生き、世界に伸びる」人材を育成します。

取組の概要

就業して役に立つ実学的専門教育として卒業研究に着目し、これをキャリアデザイン教育の最終段階と位置付け、実社会と連携させる地域連携型卒業研究へと拡張することが本取組のポイントとなります。



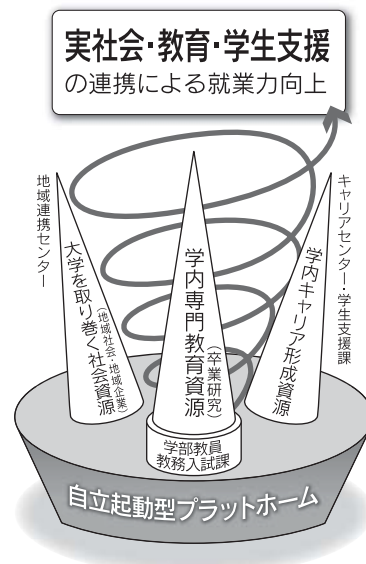
地域連携型卒業研究は本学が保有する3つの資源、①学部が持つ専門教育資源、②キャリアセンターが持つキャリア形成資源、③地域連携センターが持つ地域企業・地域社会という社会資源を活用します。これらの資源を自立起動型プラットフォームとして整備し、このプラットフォーム上で事業を推進するエンジンが学生GP制度になります。

具体的には、地域企業・地域社会から研究テーマを募集し、それを学生が卒業研究として行うもので、実社会と学生とを結び付けるものです。

現実の問題を扱うため、学生にとって社会人としての演習の場となります。現実問題を解決する主体となった学生は、研究過程で、プラットフォーム上の3つの資源へのアクセスを繰り返すことで自律と自立が促され、就業力を育んでいきます。

地域連携型卒業研究成果は、依頼先の地域企業等の担当者と大学教員によって評価します。実社会の評価視点を大学内に持ち込むことで、専門教育の改革にもつなげることができます。また、シンポジウムも開催し、研究成果を取りまとめ広く地域に還元していく予定です。

学生(が主役の)GP制度



学生GPラボ

地域連携型卒業研究の研究・協議の場として、パソコン等機器を設置した学生GPラボをキャリアセンター横の談話室、講義棟1号館9～10番教室に整備しました。学生グループは、この学生GPラボで地域連携型卒業研究の取組状況を確認し合い、また、特任教授、特任准教授から助言・指導を受けます。

特任教授、特任准教授には、以下の方に就任いただき、学生への指導及び地域企業等と学生との連携、実務的なキャリア教育の展開にご尽力いただきます。

特任教授 (株)熊本シティエフエム専務取締役 大園 光氏
特任准教授 元熊本県立大学環境共生学部研究室助手 吉 赫哲氏

熊本新時代に向けた新しい取組2

玉名市での新しい観光づくり

総合管理学部 教授 津曲 隆

活動の始まり

津曲研究室は、日常の中に埋没した資源(地域遺伝子と呼んでいます)の発掘、そしてそれをコンピュータ等の新しいメディアを使って可視化することに取り組んでいます。昨年の5月、玉名観光協会から新幹線開業に向けた新しい観光づくりに協力してもらえないかとの依頼がありました。依頼を受け、わが研究室では、3年生を主体にした地域遺伝子発掘チーム“みえないセカイ、みつけ隊”を結成、玉名観光協会と協働して半年以上にわたる調査活動を始めました。

みえないセカイ、みつけ隊の活動

活動を開始した“みつけ隊”は、最も大きな調査では30人ほどが参加し、ボイスレコーダー、デジカメ、ビデオカメラを手に玉名に出かけました。しかし、新しいスタイルの観光ということもあり悪戦苦闘。「何がしたいの?」と地域の方の素朴な質問にしどろもどろとなり、その関門をどうにか突破した後、調査を断られたり、逆にみっちり数時間も話につき合ったりと多様な体験に出会いました。現場とは混沌としたところですが、その現場での人との相互作用によって情報は生まれます。現場での作法についてOB/OGからノウハウを学び、しかし最後は自らの知恵を絞りながら、“みつけ隊”は観光情報に相応しいたくさんの地域遺伝子を見つけました。



“みえないセカイ、みつけ隊” 集合写真

活動の成果

調査活動を終え、持ち帰ったたくさんの地域遺伝子をエアタグ*という新しいメディアによって表現する編集作業も終わり、玉名ではこれらを利用した新しい観光が可能になりました。

この活動は、地域の中で学生の学びを育むサービスラーニングを意識していました。この学びの枠組みの中で、学生たちには、実社会という野生の学習空間に長期間入

り込み、そこで実質的成果を出すよう求められました。その結果、彼らは、知識や表現力の重要性に気づき、さらにまた「大変だけど、やりがいがある」と言いながら根気のいる事前準備とまとめ作業も休日返上で行き、半年間でたくましく成長しました。

熊本新時代。時代を切り開くのはもちろん人に他なりません。このような学びの中でたくましく育った若い世代が次の時代を切り開くエンジンになるものと期待しています。

※エアタグ

エアタグとは、目の前の風景に仮想的に貼り付けられた付箋(ふせん)のごとく、iPhoneなどのスマートフォンアプリ「セカイカメラ」によって見ることができます。エアタグをタップすると詳細情報(文章、画像、音声、動画)が表示されます。エアタグは誰もが自由に利用でき、それを他の誰でもが見ることもできます。このため、場所を媒介として人々のコミュニケーションを促すツールとしての役割も期待されています。



夏に実施した玉名市高瀬地区商店街インタビュー調査



学園祭 白亜祭にてエアタグの効果の実証実験



取組についてテレビ局から取材を受ける学生

熊本新時代に向けた新しい取組3

熊本で学ぼう 学園都市くまもと

熊本県内にある大学・高専等が連携

「高等教育コンソーシアム熊本」の取組

高等教育コンソーシアム熊本は、熊本県内の大学・高専等が協力して、地域社会の教育・研究の充実・発展、教育環境の向上を目的に、本学など熊本県内14の高等教育機関で構成されさまざまな活動をしています。

平成22年度から学生交流事業の新たな取組として、各加盟校の学生から成る学生企画委員会を設置。学生が中心となり自主的に以下のような活動を企画・運営しました。

平成23年度は、熊本で第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムを開催予定です。「学生が輝く くまもと」を全国にアピールできるよう本学も積極的に取り組みます。

■「みずあかり」にコンソーシアムとして初参加!

平成22年10月9日～10日に行われた「みずあかり」に延べ60人の学生(本学17名)が参加し、熊本城をバックに「KUMAMOTO」の文字を浮かび上がらせた灯りの製作、竹細工などのワークショップを行い、祭りを盛り上げました。



「みずあかり」準備の様子

■パレードで学園祭をPR!

平成22年10月11日、各加盟校から約150名(本学37名)の学生が参加し、学園祭合同PRパレードを行いました。

■熊本城クリーン大作戦を決行!

平成22年11月28日、熊本城クリーン大作戦と銘打ち、各加盟校の学生・教職員約210名(本学36名)の参加によるゴミ拾い、落ち葉拾いなどの清掃活動を行いました。

■学生モデルによるファッションショー&座談会を開催!

平成22年12月4日、「フェアコレ&ツジトーーク～フェアトレードコレクション2010冬」を開催しました。加盟校から1名ずつ選出された学生モデルが「フェアトレード」の商品を着用して行うファッションショー及び

明治学院大学教授の辻信一氏と学生による座談会を行い、「フェアトレード」への理解を深めました。

活動する学生の声

岩下 圭祐さん

前学生企画委員会副委員長
(総合管理学部4年)



平成21年の秋に実施された高等教育コンソーシアム熊本創立3周年記念事業を熊本県立大学文化委員長としてお手伝いをしたことが縁で、第1期の学生企画委員となり副代表を務めました。

学生企画委員会では、学校の枠を超えて熊本の学生の姿を発信して行くことを目的にいろいろなイベントを実施しました。

私は、「みずあかり」の全体総括を行ったのですが、人を動かすことの大変さ、人へ伝えることの難しさを実感しました。たくさんの人にお世話になりながら、また、お叱りを受けながら寝る間も惜しんで臨んだので、イベント終了時は、今までにないような達成感がありましたし、他大学生や社会人の方、立場も年齢も異なる方々と一緒になって作り上げられたことで自分に大変自信がつかしました。

学生企画委員会としては2期目の方々に引き継ぎましたが、これからも「学都くまもと」「元気なくまもとの学生」をアピールするため力になればと思います。



学園祭合同パレード



フェアトレード座談会

活躍する卒業生

さまざまな分野で活躍する熊本県立大学の卒業生を訪ね、現在のお仕事や、ご自身の学生時代について、語っていただきます。

学校図書館は、従来の「読書」だけでなく、「学習」「情報センター」としての機能が求められ、関心や意欲を育て、学び方を身につける「学校教育の中核」としての役割が強く期待されるようになってきています。今回は、学校司書として活躍する竹口さんにお話を伺いました。

熊本県立人吉高等学校
記念図書館
竹口 祥子さん



Profile

熊本県立大学文学部英語英米文学科2006年3月卒業。
同文学部総合文化・教職部門資料室嘱託、信愛女学院高等学校非常勤講師を経て、2010年4月より熊本県学校図書館事務職員として人吉高校に勤務。

与えられた場所で努力すること それによって見えてくることもある

学校図書館事務職員という仕事

私は学校図書館事務職員として働いています。司書教諭ではなくいわゆる「学校司書」と呼ばれる仕事です。選書・発注・受入や貸出・返却等のカウンター業務、図書委員会の運営など、学校図書館に関わる仕事を幅広く担っています。

人吉高校記念図書館は、旧制人吉中学からの歴史がある図書館で、県の重要文化財指定を受けている貴重な朝鮮本から話題の新刊まで幅広く多数の蔵書を有しています。また、年間で1000冊超の図書を新たに受入れています。これらの資料の受入と管理に関わる実務を1人で行うため、実際の日常業務の大半が受入と管理に関わる仕事です。図書館の資料は学校の大切な財産であり、長く保管され、利用されるものです。そのため、受入れる本を選ぶ選書や蔵書を管理する仕事の責任の重さに不安を感じますが、同時に緊張感とやりがいを持って日々を過ごさせてもらっています。

巡り合わせに感謝し、努力すること

司書は正規採用の求人が少なく、就職が厳しい職種です。私がこのような仕事に就くことができたのは、多

くのひととの出会いと、そこで経験させていただいたこと、学んだことのおかげです。初めて就いた仕事は、熊本県立大学文学部総合文化・教職部門資料室の事務でした。社会人として最初の時間を、学生時代からお世話になっていた先生方の近くで過ごさせていただきました。そこで学生時代には見えていなかったことを知り、経験したことが現在の基盤になっているように思います。

今の自分が居られる環境に、人との出会いに、巡り合わせに感謝し、その場で一生懸命努力をすること。流れに身を任せるのではなく、自ら流れに身を投じ、そこでどう考えてどう動くのか。それによってその先の風景も自分自身も違ってくるはずですよ。

私も皆さんも、今いる環境は決して自分だけのものではありません。支えてくれる人や時間や場所を共有している周りの人のものでもあります。自分本位の考えは捨てて、まずは与えられた場所で努力すること。それによって自分の能力と適性、将来の希望が見えてくることもあると思います。目指す先を見ることも大切ですが、道は足元からつながっていることを忘れないでください。

国際交流

～世界を学ぶ、海外と交流する～

International Exchange

世界を 学 ぶ

文学部 水尾文子准教授は2009年9月15日から2010年9月14日にかけて、英国に留学されました。

留学先: 英国 レスター大学

ヴァージニア・ウルフ(特に1930年代)、 現代英国女性作家 母娘関係と過去の時代表象

【海外研修報告】

文学部 准教授 水尾 文子

2009年9月から1年間、英国レスター大学を拠点に、20世紀以降の英国女性作家の研究に専念しました。現代小説の分野で活躍する同年代の研究者の下で、周りの人や機会に恵まれ、渡英前に想像していた以上に充実した1年間を過ごすことができました。

英国の大学の英文科での文学研究は、日本の多くの大学で見られるような、アメリカ文学、イギリス文学といった国ごとの区分ではなく、中世、ヴィクトリア朝、現代など時代ごとにコース区分されるのが一般的です。レスター大学では、私は、英米のみならずオーストラリア、インド、他の地域の20世紀以降の英語で書かれた文学研究を対象とした「現代文学」に所属し、学内で開催される講演会やセミナーを通して、近い領域を研究する先生達と長時間議論したり、研究に熱い思いを抱いて論文執筆に取り組んでいる院生の姿に学位留学していた頃の10年前の自分を重ねあわせたりと、いろんな面で強い刺激を受けた毎日でした。

普段の研究活動以外に、学内の院生対象の特別講義や学外の学会で研究発表をする機会を通じて、多くのことを学びました。また、学内外で開催された著名な作家や理論家の講演会に参加し、その中のいくつかの催しでは、講演者と直接意見交換できたことも、英国滞在中ならではの貴重な経験でした。

しかし、私にとって最大の収穫は、滞在中の人間関係です。英文科の同年代の先生方と食事したり観劇したり、帰国前には小旅行に連れて行ってもらったりと、多くの時間を共有し、公私共に貴重な研究仲間・友人が増えました。また、滞在中、英国での院生時代の恩師の家でクリス

マス休暇を過ごしたり、現在は英国各地の大学で教える当時の同級生とも再会し、旧交を温めました。改めてふり返ると、非常に充実した貴重な1年間でした。

今回の研修での収穫と新たに見えた今後の課題を念頭において、滞在中の人との出会いに感謝し、それが今後の自分の研究面と人間性の両方の成長につながるよう、帰国後の教育・研究活動に力を入れようと思っております。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を下さった熊本県立大学と、不在の間ご不便をお掛けしたにもかかわらず送り出して下さった教職員の皆様にも心より感謝いたします。



作家 Virginia Woolf の家にて



公私共に行動したレスター大学 Emma Parker 氏と

世界に伸びる大学を標榜する本学では、「国際性の推進」を三大理念のひとつに掲げています。その理念をより具現化するため「国際交流ビジョン」を策定し、「学生」、「学術研究」、「地域」、それぞれの視点から全学的に国際交流活動を推進しています。

海外と 交流する

本学の姉妹校であり、短期交換留学生をはじめ短期語学研修団の相互派遣など活発な交流を行っている祥明大で、3回目となる学術フォーラムを開催しました。

第3回 祥明大・熊本県立大学 学術フォーラム

【開催報告】

環境共生学部 教授 有蘭 幸司

熊本県立大学は、国際的な学術交流推進の一環として、姉妹提携を締結している韓国 祥明(サンミョン)大との間で、平成20年度から毎年学術フォーラムを開催しています。平成20年度は「日本語と日本文学をみる、二つの視点」をテーマに祥明大で、平成21年度は「ことばと文学 一境界を越えて」をテーマとして本学で開催しました。

第3回となる平成22年度は、平成22年11月17日(水)に「グリーン・グロースと環境共生」をテーマに祥明大 学術フォーラムハンナリ館コンベンションセンターで開催しました。発表者、タイトルは以下のとおりです。

裴茂 壽太郎 公立大学法人熊本県立大学 理事長 農学博士
『環境科学と造園科学』

朴 振秀 祥明大 工科大学環境工学科 専任講師
『韓国における水素燃料電池の研究開発動向及び展望』

堤 裕昭 熊本県立大学 環境共生学部環境資源学科 教授
『過去30年間における有明海の生態系の衰退と回復をめざして』

具 本學 祥明大 産業大学環境造形学科 副教授
『韓国の湿地研究:その現状と課題』

最後に大邱(テグ)大の金教授の司会のもと総合討論が行われ、聴衆の祥明大教員や学生から、裴茂理事長、堤教授に対し発表内容に加え、日本での新エネルギーの現状など幅広い環境問題についての質問が相次ぎました。そのため、時間を超過して活発な意見交換が行われ、本当に意義深いものとなりました。学術フォーラム終了後は、関係者に加え日本語文学科の先生方や学生も参加し懇親会が和やかに行われました。

学術フォーラム開催前日(16日)には、裴茂理事長が祥明大 学術フォーラム学長、副学長とそれぞれと懇談、今後の両校間の交流について意見交換されました。また、祥明大バスケットボールチームが所属する韓国大学1部リーグの試合が同キャンパス内で行われており、裴茂理事長は、祥明大 学術フォーラム学長、副学長に加え、祥明大 学術フォーラム理事長とも一緒に観戦し交流を深めました。

今回、祥明大 日本語文学科長 金教授には仁川空港からの送迎、宿泊用ゲストルームの提供など本当にお世話になりました。加えて、学術フォーラム開催にご尽力いただいた祥明大 日本語文学科の皆さんに感謝の意を表したいと思います。

平成23年度は、開催地を熊本県立大学に移して、文学部、環境共生学部に加え総合管理学部も交え3学部で「ことば」「環境」「社会」をキーワードに学術フォーラムを開催する予定です。



堤教授の発表



総合討論 (左から)大邱大 金教授、祥明大 具副教授、朴専任講師、熊本県立大学 裴茂理事長、堤教授

企業経営に必要な お金の考え方



総合管理学部 准教授

望月 信幸

Profile

横浜国立大学大学院国際社会科学研究所(博士後期)修了。
博士(経営学)。

2008年4月より本学教員。2011年4月より現職。

企業の成長を解明する

組織が成長するためにはどのような秘訣があるのでしょうか。その秘訣を会計学の見地から解明することが研究のテーマです。企業経営を円滑に行うためには、企業を取り巻く環境を分析し、適切なビジョンと戦略を設定し、目標を達成するための合理的な組織を構築することが必要です。そして何より最も重要なことは、働く人々が同じ方向に向くように動機づけることです。そのためには、経営戦略やマーケティング、人的資源など、経営学の知識を最大限に活用することが求められます。

戦略やマーケティングでは、言葉などによってそれぞれの主張が表現されます。しかし、言葉などは読み手の理解によって全く異なったニュアンスで受け取られることもあり、正確に伝わらない場合もあります。そこで、誰が見ても同じように理解される統一的な単位としてお金という会計数値を用いて表現し、組織が成長できるように会計数値を通じて意思決定や業績評価を行うシステムを構築するのが管理会計です。

責任会計論研究室

本研究室では、組織の構造に焦点を当て、そこで働く人々、特に組織の管理者にどのような権限が委譲され、どのような責任を負っているのか、そして持っている権限を最大限に活用してどれだけ組織業績向上のために貢献したのかを測定する方法を探っています。その際、従業員や組織の業績を測定するためのツールとして会計数値を利用し、どのような指標が適切に業績を測定できる評価指標なのかを研究課題として掲げています。



合同ゼミナール合宿での報告会風景
(大分県玖珠郡九重町・青少年の家にて)



工場見学
(大分県中津市・ダイハツ九州中津工場にて)

企業は部門別や事業部別など組織形態も多様であり、また同じ部門別であっても企業によって管理者に委譲される権限や責任の程度は異なります。そのため、どのような組織にはどういった業績評価指標が適しているかという議論ではなく、その組織では管理者がどのような権限と責任を持ち、その責任を的確に測定する会計数値が何かについて検討を重ねています。それによって、従業員の動機付けや組織全体の目標と下位組織の目標との適切な調和など、企業の業績がさらに向上するために必要な情報の提供や理論の構築を目指しています。

他大学とのゼミ交流

同じ原価計算や管理会計を専攻している他大学のゼミと、3年生の夏に合同ゼミナール合宿を開催しています。事前に全体共通のテーマを決め、全体のテーマに沿って各大学のゼミごとに具体的な研究テーマを設定します。学生は自分たちで設定した研究テーマについていろいろな文献を調査し、3年生の夏の発表に向けて論文を執筆していきます。合同ゼミナール大会では参加者全員の前で自分たちが調べた成果を報告し、活発な議論を展開することで知識を広げ、また実務の現場を体験することで議論を深めてもらおうと、合同ゼミナール大会では工場見学も行っています。

原価計算や管理会計の知識が実際の企業ではどのように利用されているかを学生に指導しつつ、学生の新しい発想や想像力から私たちも多くのことを学び、さらなる教育・研究活動の糧としています。

学会での活動

現在、学会では主に2つの活動に携わりながら研究を行っています。

①スタディ・グループ構成員としての研究活動

所属している日本会計研究学会において、「情報ニーズの拡張と管理会計の変容」をテーマとしたスタディ・グループの構成員として研究活動を行っています。2年間という決められた期間の中で、情報ニーズがどのように変化しどういった拡張が行われているのか、またそれにもなって管理会計はどのような変容を遂げているのかを中心に、業績評価の観点から理論的かつ実務的研究の成果を公表し、企業の活性化に必要な情報を提供することで地域や社会に貢献できるよう、研究活動を行っています。

②簿記教育研究部会構成員としての活動

また日本簿記学会では、簿記教育研究部会のメンバーとして「明治以降の商業学校の簿記・会計教科書の歴史の研究」をテーマに考察を行っています。こちらも2年間という期間の中で、日本における簿記教育がどのようにして体制を整え教育が行われるようになったのか、また日本における簿記教育がどのような歴史的な発展を遂げたか、さらには今後の簿記教育に対する重要性について考察を行っています。

公立大学法人熊本県立大学と熊本県玉名市が包括協定を締結

平成22年10月19日に公立大学法人熊本県立大学と玉名市が包括協定を締結しました。この協定は、公立大学法人熊本県立大学と玉名市が、包括的な連携のもとに、観光振興や地域資源の活用など様々な分野において、相互に協力することを目的とするものです。

今後、公立大学法人熊本県立大学と玉名市は、

- (1)観光振興のための連携
- (2)地域資源の活用のための連携

(3)行政改革推進のための連携

(4)人材育成やまちづくりのための連携などに取り組んでいきます。



本学と玉名市包括協定調印式

熊本県立大学CPD「学び足し、学び直し」プログラム講座を開講しました

本学では、卒業生はもとより、広く県内企業、団体等で働く社会人を対象に、学び足し、学び直しなど専門職業人としての資質能力開発の機会を提供する事業「熊本県立大学CPD(Continuing Professional Development)「学び足し、学び直し」プログラム」に取り組んでいます。平成22年度は、主に地方自治体で働く職員を対象に「自治体職員の最前線」、ブランドづくりに取り組んでいる事業者を対象に「くまもとブランド塾2010」実践講座(事業者向けコース)を開講しました。

平成23年秋には、CPDセンターの開設を予定しており更なる事業充実を目指します。



「自治体職員の最前線」クロスロード体験

くまもと緑・景観協働機構との協働で「くまもと緑のリレーフォーラム」を開催

公共の場所はもちろん、住宅や会社、店舗などにも緑や花を増やし、美しいまちを作っていくことが地域の活力を生む源になると考え、熊本県立大学とくまもと緑・景観協働機構と協働で「くまもと緑のリレーフォーラム」を開催することにしました。

平成23年1月30日に天草市で約550名参加のもと「花による宝島構想」をテーマに、2月26日に玉名市で約300名参加のもと「新幹線開通を契機とした緑のまちづくり」をテーマに開催しました。今後、5月28日に「都市及びその近郊における市民による緑のまちづくり」を

テーマに菊陽町で、7月10日に「歴史的庭園と緑のまちづくり」をテーマに人吉市で開催します。

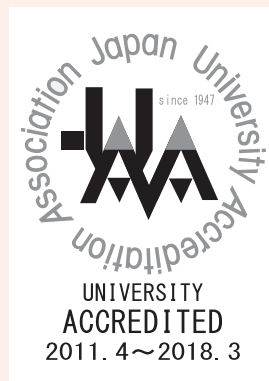


くまもと緑のリレーフォーラムinあまくさ
安田天草市長、フリーアナウンサー須磨佳津江氏、蓑茂理事長の鼎談

認証評価で「適合」と認定されました

本学は、平成22年度に財団法人大学基準協会が実施する認証評価を受審し、「大学基準に適合している」と認定されました。認証評価は、学校教育法ですべての大学に受審が義務付けられている外部評価で、本学は、自己点検・評価報告書「熊本県立大学の現状と課題2010」を提出し、受審しました。評価結果では、本学に対する提言として、「長所として特記すべき事項」が2項目、「助言」が4項目付され、義務的な改善が求められる「勧告」はありませんでした。

本学は、認証評価結果を真摯に受け止め、今後も自己点検・評価を基本とした大学運営に取り組んでいきます。



認証評価に関する情報は、ホームページでご覧いただけます。

URL http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/01menu/daigakugaiyo/tenken-hyoka_ninsyo.html

熊本県立大学未来基金への ご協力に、心より お礼申し上げます。

熊本県立大学未来基金につきまして、平成22年10月1日から平成23年2月28日までの間に、下記のとおり個人10名、2法人・団体等の皆様から総額848,255円のご寄附をいただき、これにより平成21年9月8日設立以来の基金総額は、87,957,255円(申し出分を含む)となりました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

1. お名前・寄附金額の掲載を 希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。)
※○内の数字は、累積寄附回数です。

- 50万円 社団法人熊本県造園建設業協会②
- 10万円 金井 秋子
- 5万円 岩下 道子
- 33,255円 映画「育子からの手紙」実行委員会

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。)
※○内の数字は、累積寄附回数です。

- 【個人】 井上 昭夫② 黒木 誉之
本田 米子

3. お名前・寄附金額の掲載を 希望されないご寄附者

- 【個人】 5名

熊本県立大学同窓会紫苑会から 図書をお贈りいただきました

例年、熊本県立大学同窓会紫苑会から、様々なジャンルの図書のご寄贈を受けており、本学図書館に配架して学生や県民の方々に広くご利用いただいています。平成22年度も65冊の図書をご寄贈いただきました。

【寄贈図書の紹介(一部)】

書籍名	著者名
シューマンの指	奥泉 光
夢を見るために毎朝僕は目覚めるのです 村上春樹インタビュー集 1997-2009	村上 春樹
シネマ食堂	飯島 奈美
世界のしくみがよくわかる! ニュースを読む技術	池上 彰
グーグル・ジャパンで働く11人の英語勉強法 グローバルに活躍できる日本人になる!	English Zone 編集部取材班編
減らす技術 もっと少なく、もっと小さく、もっと価値あることを	レオ・パボータ著/ティス カヴァー・クリエイティブ訳
だから人は本を読む	福原 義春
ぶらり日本歩き旅: ウクレレ担いだ渡り鳥 新版	森崎 英五朗
面接の10分前、1日前、1週間前にやるべきこと 会場に行く電車の中でも「挽回」できる!	海老原 嗣生
早大院生と考えた文章がうまくなる 13の秘訣	近藤 勝重
おやつですよ: くり返し作るわたしの定番レシピ集	なかしま しほ
これなら覚えられる! フランス語単語帳 (CD BOOK)	六鹿 豊
ドイツ語のしくみ	清野 智昭
儂い羊たちの祝宴: The Babel Club Chronicle	米沢 穂信
真鶴	川上 弘美
歩きながら考えよう: 建築も、人生も	安藤 忠雄
人の心を動かす文章術	樋口 裕一

後援会便り



就職相談に対応している キャンパス・キャリアエンジェル(CCA)

キャリアセンターでは、卒業後の進路が決定した4年生(CCA)によるスチューデントアドバイザー制度を設けています。自身の就職活動の経験や学生生活を踏まえて、就職に関しての不安や悩みを抱えている学生の相談を受ける活動を行っています。後援会では、この活動を就職支援事業として支援しています。

後援会 とは

- 本学学生の保護者またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

【後援会の事業】

次の4つの事業を中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》

- 就職対策講座として、公務員講座、二級建築士講座、簿記講座等を開催
- 適職診断プログラムの実施、各学部による就職支援事業への助成、OB・OGと連携した就職支援事業の展開

《学生活動支援事業》

- 各サークルの活動費の一部、全国大会出場経費等の一部を助成
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し、図書館へ配置

《国際化推進事業》

- 海外留学・研修期間に応じて渡航経費の一部を助成
- 留学対策講座の開催

《教育研究助成事業》

- 学生共同自主研究助成
(学生グループが自主的に行う研究経費の一部を助成)
- 国内学生大会等出場助成
(インターゼミナール等への出場経費の一部を助成)

このコーナーでは、サークル活動をはじめ、地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。

多くの人に伝えたい 本当のウェイトリフティングの楽しさを

ウェイトリフティングの起源は、古代ギリシアで石を持ち上げて力比べをしていたことが始まりだと言われています。力自慢、腕力勝負の競技と思われがちですが、足腰のバネ、スピード、タイミング、バランスが重要な競技だそうです。

高校時代に全国高校女子選手権出場経験もあり、本学でも「熊本県立大学女子ウェイトリフティング同好会」を立ち上げ、代表を務める北崎さんにお話を伺いました。

『ウェイトリフティング(重量挙げ)』

耳にしたことはあってもなじみがなく、『ボディビルダーのような人が重そうなバーベルを渾身の力で持ち上げ、腰を悪くしそうな競技・・・』といったイメージをお持ちではないでしょうか。私達はそのようなイメージを払拭するとともに、『自分の体について考え、健康な体づくりのための生活やトレーニングを実践する』をモットーに、平成22年11月から活動を始めました。

実際にウェイトリフティングとはどのようなルールで行われるのでしょうか。

ウェイトリフティングとは、名前の通り重量を持ち上げるスポーツですが、スナッチとジャークの2つの種目があります。スナッチは地面においたバーベルを一気に頭上に持ち上げ立ち上がりますが、ジャークは地面においたバーベルを一度肩まで持ち上げそこから足や腰など全身の力を使い頭上まで持ち上げます。両者とも持ち上げた後、数秒間審判の合図がでるまでその姿勢を保ちます。これら2種目で持ち上げた重量の合計を階級ごとに競います。一般的にスナッチは一気に持ち上げるのでジャークより記録が低くなります。世界大会レベルにもなると48キロ級の女性でも合計が200キロ以上も持ち上げることができます。



熊本県立大学女子ウェイトリフティング同好会メンバー



北崎さんのジャーク



練習風景



熊本県立大学
女子ウェイトリフティング同好会
代表 北崎 結子さん

環境共生学部 環境資源学科 2年

ウェイトリフティングと聞くとやはり体格の良い選手を想像し、腰痛の発症を恐れられがちですが、実際には華奢でかわいい選手もいますし、正しいフォームで練習すると健康に良いこともたくさんあります。まず、全身を使うために体がほぐれ、気分がスッキリします。また、筋肉がつくことによって怪我が減る、姿勢が良くなる、代謝が良くなる…。などあらゆる体の部位に作用します。私達はこのようなウェイトリフティングの隠れた魅力を皆さんに伝えていきたいと思っています。

現在、同好会部員10名で健康な体作りを目標に、各個人で練習計画を立て実践しています。練習日は、ミーティングでそれぞれが練習できる日、時間を話し合って決めています。基本的に月曜日から金曜日まで誰かがトレーニングルームで、ウェイトリフティングを含めた筋トレやその他の運動を行っています。興味のある方は、ぜひ見学に来てください。

入部希望の方は、月曜日に環境共生学部棟5階セミナー室で行うミーティングまたはトレーニングルームへお越しください。

今後は、大会出場など校外での活発な活動も計画しています。まだまだ課題もたくさんありますが、それぞれの目標達成と一人でも多くの人に本当のウェイトリフティングの楽しさを知っていただけるように頑張ります。

人事情報

採用 (平成23年4月1日付)

[文学部]			
日本語日本文学科	講師	木村	洋
[環境共生学部]			
環境資源学科	教授	石橋	康弘
環境資源学科	講師	一宮	睦雄
環境資源学科	助教	小林	淳
食健康科学科	准教授	松本	直幸
食健康科学科	助手	中嶋	名菜
[事務局]			
事務職員		安達	直昭
事務職員		竹林	利将

就任 (平成23年4月1日付)

[総合管理学部]			
総合管理学科	情報管理コース長	宮園	博光

昇任 (平成23年4月1日付)

文学部	教授	村尾	治彦
文学部	教授	レイヴィン・リチャード	
総合管理学部	准教授	望月	信幸

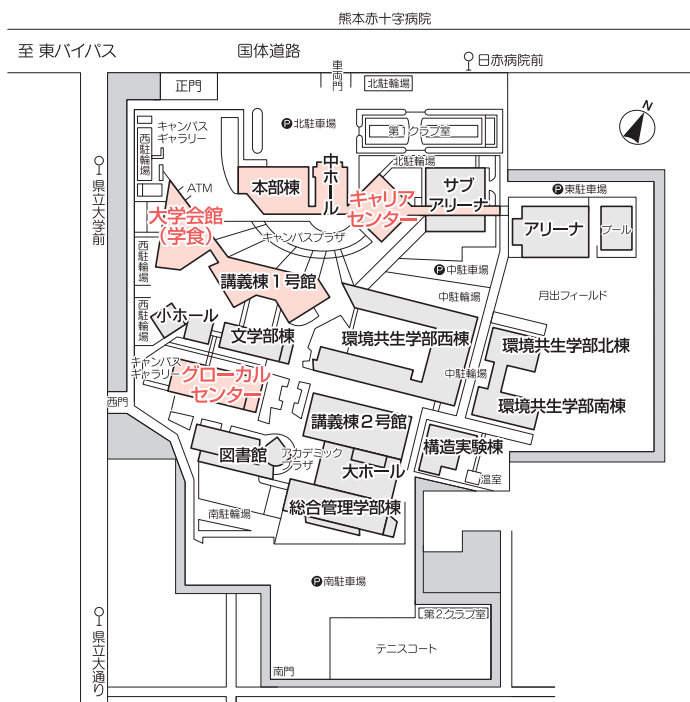
退職 (平成23年3月31日付)

文学部	教授	梅林	誠爾
環境共生学部	教授	大和田	紘一
総合管理学部	教授	今里	佳奈子
総合管理学部	准教授	貞廣	泰造

大学施設の名称が変わりました

熊本県立大学が、在学生・教職員はもちろん、地域の皆さまのより親しみやすい施設となるよう、在学生等からの意見を踏まえ、次のとおり施設の名称を変更しました。

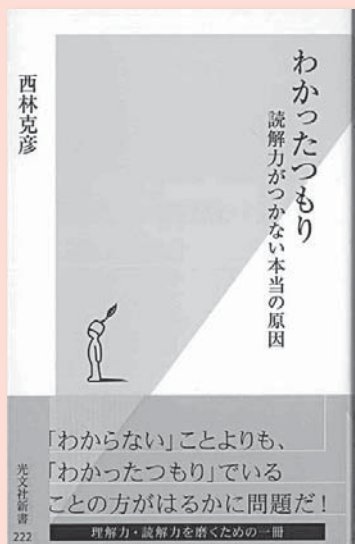
- 第1大学会館 → **キャリアセンター**
- 第2大学会館 → **大学会館**
- 外国語教育センター → **グローバルセンター**



おすすめの1冊

「わかったつもり 読解力がつかない本当の原因」

西林克彦著
光文社新書 2005年



著者は、正確なよりよい理解のための障害は文章を読んで「わからない」ことではなく、「わかったつもり」になることだと言う。文章中の部分間の関係がなんとなく理解できればわかったつもりになる。しかし、部分間の緊密な関係の理解があってより深い読みとなる。この深い読みにはトピックに関わる背景的な知識のまとめりである「スキーマ」(私の専門の「認知言語学」では「フレーム」と呼ばれることもある)の活性化が鍵となる。

このスキーマの活性化の度合いによって理解の程度も変わり、場合によっては「わからない」状態にもなる。本書では読解力に焦点を当てているが、この考え方は「話す」「聞く」「書く」を含めた4技能に通ずる。真のコミュニケーション能力育成にはいわゆるスキーマ的な側面だけではなく、多様なスキーマの蓄積、スキーマを活性化させる能力、活性化させた上で理解や伝達の過程において重要な情報を選択する能力等が必要となる。

さて、皆さんは次の文をどのように理解しますか。自分が持っているあらゆるスキーマを活性化させて考えてみましょう。

「布が破れたので、干し草の山が重要であった。」(本書より)



文学部 教授
村尾 治彦

熊本県立大学ギャラリー



春宵の宴 1991年 130.3×194.0 第23回日展 熊本県立大学蔵

【春宵の宴】

熊本在住の日展会員として活躍された洋画家 野田健郎氏(1921-1993)の絵画を紹介し
ます。

この絵画「春宵の宴」(1991年製作)は、夕闇に浮かぶ熊本城の櫻の頃を描いたもので
第23回日展に出品されました。2004年から本学図書館の入り口正面に飾られています。

ART TOPICS

熊本県立大学中学生 書道コンクールを実施しました！

熊本県立大学では、大学と中学校との連携事業
として、平成20年度から県内の中学生を対象に
「環境」に関するコンクールを実施しています。

平成22年度は、「環境と私たちの未来」をテ
マとする書道コンクールを実施し、県内の中学校
19校から796作品のご応募をいただきました。



■半紙の部 1年 最優秀賞
■半紙の部 2年 最優秀賞
■半紙の部 3年 最優秀賞



熊本市立東野中学校
八代市立坂本中学校
熊本市立西山中学校



藤本 彩花さん「美しい空」
田中 友さん「環境」
有迫 涼子さん「国際理解」

「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL 096(383)2929(代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

再生紙を使用しています



この印刷物は大豆インキを使用しています